



すすんで学ぶ子
心豊かな子
たくましい子

中宮

令和5年1月31日
第644号
枚方市立中宮小学校
校長 池原 義人



準備の学期、もう2月に入ります



「日本古来の一斉授業」と、笑われました

教頭になる間際、6年生を担当したときに校内の研究授業を行いました。標題は、そのときの講師である大学教授から受けた、手厳しい批評です。当たり前のように、全国的に進められている「学びあい」を受け入れず、徹底的に教え込んでいたわけですから当然の評価です。

低学力中学生の受け皿となっていた、あの学校へ進学するような子どもを作ってはならない。計算方法や公式を覚え込ませ、問題に答えられるようにする。漢字は、間違えたら何十回もプリントに練習させ覚え込ませる。塾などに通うどころか、家で勉強することなど宿題以外にはあり得ない。そんな子どものことを頭に、唯一の家庭学習となる宿題は絶対に提出させる。忘れてきた児童がいたら、休憩時間となりで見張りをしながら取り組ませていました。担任としての使命感、偏った使命感から、こんな指導をしていました。

私の授業、「分かりやすい」と子ども評価をうけていました。学習困難な子ども達の保護者からは、感謝もされました。しかし、「分かりやすい」とはどういうことなのか、分かっていることを丁寧に(しつこく)繰り返し指導されている子ども達にとっては、どうだったのでしょうか。そこに考えを至らせることが抜けていたと思います。

でも担任は、3人も4人もいないのに……。

先日の校長会后、教育委員会指導主事より、来年度(令和5年度)の学力向上ビジョンについての説明がありました。私のような化石的教師はいないとしても、まだまだ「一斉授業から脱却できていない」という課題が残されているようです。

めざすゴール(めざす学びの姿)として

子どもが主役の学習活動による、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現
～教師主体の一斉授業からの脱却、「教え」から「学び」への転換～
が示されました。

素晴らしい授業の一例として、他校の事例が挙げられていました。算数(台形の面積)の授業ですが、黒板にレベルごとに分けられた「めあて」が書かれています。そのめあてに沿って子ども達が、一人で考えたり友達と相談したりして、めあてに到達していきます。好事例

を示す言葉として「教師はほとんど、しゃべりませんでした」と説明されました。まさしく今求められている授業スタイルです。

家庭学習が必要です。

あることについて、話しあったり、意見を交流したりするためには、それができるくらいの知識、それができる能力が必要です。わかる人が、わからない人を教えて「学びあい」とする、それもよい学習方法だと思います。ただし、今の中宮小学校各クラスの状況を見ると、家庭学習なしでは、ずっと友達に教えられ続ける児童が出てくると予想されます。もちろん友達を助けてあげることは素晴らしいことであり、その子自身の力にもなるでしょうから推奨していきます。推奨することによって、教える子、教えられる子、その関係が定着し、どこまでも続くのなら、教師としてもかなりハードルの高い生徒指導が必要になるでしょう。

教えられ続ける子の心に、どんなものが残っていくのかが心配です。

予測不可能な時代に突入し、10年以内に今ある職業が半分なくなると言われています。自身で積極的に情報を収集し、自らの判断で進む道を決めていく、そんな能力が必要になっていくと言われています。その力をつけていくための学習を進めていきます。その学習のための学力を身につけるため、家庭でも学習をさせてください。

タブレットドリルを活用してもらっているでしょうか?次年度には、ICT(タブレット)を活用し、復習や反復練習が容易になる対策を検討中です。ただし、いくら対策ツールを準備しても使わなければ同じです。参考書や問題集をたくさん買って、結局身につかない受験生と同じことになります。家庭学習をさせてください。

GIGA フェス 2022「枚方市タイピング選手権トーナメント大会」準優勝(低学年の部)



1月28日(土)、輝きプラザきららで開催されました上記大会にて、本校3年生の 高野 翔永 さんが低学年の部において準優勝しました。総勢200~300人登録の低学年部門100位中4位にランキングされ、決勝大会に出場することになり、当日準優勝に輝きました。おめでとう、本当に嬉しい結果です。

本校児童、タイピングも読書も、興味をもったことから高い評価を受けることが続いています。タイピングのスピードは、これからの学習や社会に出てからの仕事において、必要な能力になってくることが多いと思います。これを契機に、他の子ども達もタイピングにチャレンジしてくれると嬉しいです。

